

T: 昨日の『立場かわれば』でやったように、
友達がいばっているなと感じたときがあり
ますか。

C1: 自分が何かできるからといって、いばる人
がいます。

C2: ぼく、バスケットの練習の時、自分ができ
たから「こうやるんだよ」と少しいばって
言ったことがあるな。

T: そう、C2君は、自分のことを振り返ること
ができたんだね。

A: 私も音楽の合奏練習の時、「そうじゃない
よ、こうやるんだよ」といばって言ったこ
とがあるかもしれない。

T: A子さんも自分を振り返ることができて、
すばらしいね。



(2) 中学校での実践

① 構成的グループ・エンカウンター実践の概要
中学校で実践した演習の概要は、(資料8)の
とおりである。

特に工夫したところは、次のような点である。

- 最も周りを意識した行動がみられる時期である
ことから、教師自身が自己開示して生徒の抵抗を
払拭できるように努めた。
- 演習前後の変容を見るために、意図的に抽出生
徒を指名し、できるだけ順応生徒に活躍の場を与
えた。

(資料8) 中学校での演習の概要

演習名	ねらい	演習の概要
私ってどんな人?	① 自分はどんな人かを再認識し、自己理解をいっそう深める。 ② 級友への関心を高め、お互いを理解するきっかけとする。	好きなテレビ番組や趣味・特技など自分の好みや考え、自分をどうとらえているかなどを質問する用紙に記入する。全員記入が済んだら、教師が回収し、その中からいくつかを発表し、その人が誰であるかを当てる。
今週のスポットライト (分割)	① 級友から注目されたり、認められる体験を通して、自分のよさを再確認する。 ② 級友への関心を高め、人を肯定的にみる目とそれを素直に受け入れる態度を養う。	生活班の中から、その週にスポットを当てる班を決め、その班員の言動を観察しておく。 班員の中から、任意に選んだ2名の生徒のすばらしい点を用紙に記入する。回収して整理した後、教師が発表して掲示する。(班員一人につき、10名前後からのコメントが掲示される。)
目かくしジョギング	① 相手を思いやる心の大切さに気づく。 ② 人を信頼することの難しさとその心地よさを体験的に味わう。	4つのグループを編成し、それぞれに楕円形をつくる。一人が円の中央に立ち、相手を指名した後タオルで目隠しをし、その相手に向かって歩いていく。周りの者は、声で誘導する。たどりついたら、指名された生徒が中央に立って他の生徒を指名し、順次これを繰り返す。 2人組をつくり、一人が目隠しをし、もう一人は誘導して歩く。言葉以外の方法でコミュニケーションを図り、いろいろなものに触れさせる。時間を区切って交替する。
立場かわれば	① 役割演技を通して、相手の身になって接することの大切さを体感する。	4名のグループをつくり、各グループごとに事前に4名がつくったシナリオを読み合い、その中から一つを選ぶ。シナリオの配役を決め、シナリオにそって再現する。同じシナリオで配役を替え、何回か繰り返す。演習で感じたことをグループ内で話し合う。